



園だより かけはし

キッドワールドこども園

令和6年6月1日

晴れたり雨が降ったりといった自然の変化を子どもたちと感じ取りながら、毎日を過ごしています。

梅雨の時期は、外遊びが出来ない日も多くなりますが、絵の具やクレパスを使い丁寧にぬったり、イメージを膨らませ遊びや、段ボールで作った道をつなげて遊び込む中で、保育室から飛び出し玄関やテラスまで道をつなげ自由に遊びを広げたりして遊んでいます。このようにして、子どもたちが夢中になって遊び込めるような環境を工夫していきたいと思います。

さて、6月は保育参観があります。園生活に慣れ友だちとの関りや朝の会や遊んでいる姿など普段見ることのできない姿を見てもらえる良い機会となっています。

行事予定

日	曜日	園児に関すること
4	火	身体計測(4歳児)
5	水	身体計測(5歳児)
6	木	身体計測(3歳児)
7	金	身体計測(2歳児)
11	火	避難訓練(風水害)
13	木	Kids English
14	金	弁当日
15	土	保育参観(3・4・5歳児)
18	火	身体計測(1歳児 Aクラス)
19	水	身体計測(1歳児 Bクラス)
20	木	Kids English、健康診断、身体計測(0歳児)
22	土	保育参観(0・1・2歳児)
24	月	Kids English
26	水	誕生会
27	木	Kids English
28	金	避難訓練(大津波・大地震)

梅雨の時期に向けて

まもなく梅雨の時期に入ります。日によっては大雨への注意が必要になります。特に、「ゲリラ豪雨」や「線状降水帯」には気を付けなければいけません。

このようなことの対策として、キッドワールドこども園では、毎月避難訓練を行っています。6月は風水害を想定した避難訓練を実施します。

ゲリラ豪雨

集中豪雨の一種で、局地的に起こる大雨のことをいう。5~9月頃に不安定になることで起こり、天気予報による正確な予測が難しいとされている。地上と上空の温度差が大きく大気の状態が不安定になると、積乱雲が発生しやすくなりゲリラ豪雨となる。

線状降水帯

数時間にわたって発達した雨雲がほぼ同じ場所に停滞し、線状に伸びる長さ 50~300Km 程度の強い降水をともなう雨域の事を意味する。

お知らせ・お願い



※ 歯科検診の日が決まり次第、ルクミーでお知らせしたいと思います。また、まだ受診されていない方は、お休みをされないようお願いいたします。

※ 6月の弁当日は、14日(金)です。子どもさんが楽しみにしています。忘れないようにお持ちください。

※ 6月の保育料の納入期間は、24日(月)・25日(火)・25日(水)の3日間です。

(期限内に納入できない場合は、教頭の奥下までご相談ください。)



メディアと子どもの生活NO.2（脳に影響を与えないメディアとの接触時間）

キッドワールドこども園特別指導顧問 山崎 富美子

5月号の園だよりで紹介しました、「メディアが子どもの育ちにどのように影響を与えているのか」について今回は、もう少し深く掘り下げて考えていきたいと思います。

まず、ゲームしたりやテレビを見たりすることにより架空体験の時間が増えることで、現実体験が減ってしまった子どもたちは、その分、脳が成長していないことがわかりました。つまり身体は大きくなって、心は幼いままということなのです。一方的な情報が発信されることにより子どもたちは、「笑顔を失う」、「ムカつく」、「キレル」等の感情を無意識に覚えていきます。そのからくりには侵されてしまうと、テレビを見たりやゲームをしたりする時間が増えていき、歯止めがきかなくなっていくのです。その結果、無意識のうちにメディア依存となってしまいます。したがって、それを防ぐために、私たち大人が、メディアとの接触時間を決め、守っていく必要が起こってきます。



では、脳に影響を与えないメディアとの接触時間はどのくらいが適正であるか考えてみたいと思います。著書『メディアにおしぼまれる子どもたち』によりますと、テレビを見る時間やゲームで遊ぶ時間の目安は、テレビは1時間、ゲームは1回10分くらいにして、3回程度が望ましいとされています。特に、スマートフォンやテレビ、映画等すべての映像画像を含めた時間の総数は1時間というのが大きな目安になっています。

1日4時間メディアと接触すれば、睡眠時間を除いた現実体験の時間が4分の1に減るので、年齢相応に発達出来ないという危険性が発生します。12歳であれば、3年分が減ることになります。これが、1時間程度であれば、4分の1、つまり現実体験の16分の1が減ることになり、12歳なら0.75年分が減る程度となり、影響もそう大きくならず済みます。

また、環境省が行った子どもとメディアについて興味深い調査結果がありましたので、紹介させていただきます。まず、2011年より実施している『子どもの健康と環境に関する全国調査(ニコチル調査)』の中で、“子どもの健康と環境に関する全国調査”によりますと約5万8千人を対象に、ジャンプなどの粗大運動、物を掴むなどの微細運動、親の指示などの理解、スプーン使用や服の着脱などの5領域の発達のスコアを調べた結果、メディアの視聴時間が長い子どもの場合、1歳から2歳ではコミュニケーション能力が低くなったということがわかりました。その一方で、視聴時間が短い子どもの場合には、コミュニケーション能力が高くなるという結果が出てきました。このことから、メディアは子育てに大きな影響を与えられるということがわかってきました。

私は、メディアと子どもの関係性を調べていく中で、喜多川 泰の小説『ソバニルヨ』の1節を思い出しました。それは、「自分の意思で、必要なとき以外は、スマホをさわらない人になれなければ、人生をスマホにとられるよ」という言葉でした。そこには、知らないうちに子どもがメディアにおしぼまれているというメッセージが込められているように感じられます。

先日、「子どもに動画を見せている」というお母さんからの声を耳にしました。そのお母さんにとっては、子どもに動画を見せているということに対して何も感じていないのかもしれませんが、それこそが子どもがメディアにおしぼまれることだと感じます。全ての映像を禁止するのではなく、私たち大人がぜひ見せたい内容の映像を選択しての「1日1時間」を心掛け、保護者のコミュニティーの中でもメディアと子どもについて、話題の1つとして取り上げていくことで、子どもをメディアから守るきっかけになってくれればと思います。



参考文献『メディアにおしぼまれる子どもたち』(教文館)
『大分合同新聞R5年10月25日』